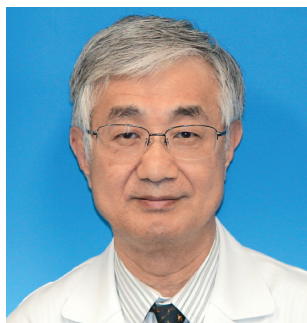


医学研究センター

共同研究推進部門

米谷 新

(部門長, 医学部 眼科学 教授)



構成メンバー

この2年間で副部門長の浅野孝雄先生の退職に伴い、新たに糸山進次先生への交替があり、現構成メンバーは以下の如くである。

部門長：米谷 新 副部門長：浅野進次, 森 圭介

部門員：穂田真澄, 栗田卓也, 椎橋実智雄, 坂本 安, 鈴木政美

共同研究部門の組織の中で中核をなしているのが中央研究施設であり、その運営委員会がその運営に重要役割を果たしている。そのため、共同研究推進部門の部門会議は第33回の運営委員会と合同で開催されるようになっている。

運営委員会のメンバーは、部門の構成メンバーに加え、別所正美, 土田哲也, 片山茂裕, 廣瀬隆則, 中村裕昭, 禾 泰壽 各先生の他、田島賢司経理部長, 和田実第二購買課長より構成されている。

部門会議活動状況

平成18年12月19日開催された第32回中央研究施設運営委員会との合同委員会とすることが発議され、医学研究センター会議で承認されて以来、2回の合同委員会が開催されている。

共同研究推進部門の目的・目標は、基本学科または、毛呂, 川越, 日高の枠に囚われることなく、全学的なレベルで行われている研究遂行を積極的に支援することである。更に、高い研究活動を維持するためには、経費、研究機器等を効率よく運用する必要があり、そのために、研究機器の整備、研究スペースの確保、人員の配置を集約的に行うことが求められる。その実践において中核的役割を果たすのが当部門の使命であると考えている。

中央研究施設の機器備品整備は、私学助成枠を有効に使い、現在のところ遅滞無く行われており、高い研究レベルを可能とする機器が設置されている。平成18年度の私学助成では、機能・生理部門から申請した「ジェネティックアナライザ」が4千万以下の予算枠で採択されている。今年度は、やはり4千万円以下の助成枠で、再生医学研究用「幹細胞解析装置システム」が形態部門より申請されている。

中央研究施設利用状況

各施設利用の登録者数は、平成19年度では延べ845名であり、活発な研究活動が維持されていることと推測される。

今後の課題・問題点

現在、年度末の会計報告、予算申請の時期に開催される委員会以外は、不定期である。その他の委員会も多く調整が必要であるが、部門としての方向性の確認や現状把握のためには、定期的な開催も検討されるべき時期に来ていると判断される。

中央研究施設に関しては、その利用の現況は、毛呂キャンパスが主体である。この3キャンパスのおかれている物理的な障害を乗り越え、より集約的な研究支援体制が可能であるかについても前向きに検討する必要がある。組織拡大の一方で、その土台となる研究施設への十分な資金配分を達成するためにも、この課題は早急に討議されるべきものとする。